

kokyosotsushin

高教組通信No.2 知事選特集② 2017年5月13日  
兵庫高教組書記局

HP:「兵庫高教組」検索 → 【HSTU】TOP of 兵庫県高等学校教職員組合（お問い合わせフォームもあります）

失政のツケを県職員に押し付け！  
賃金の「行革」カットを10年も続ける兵庫県

「ありがとう 心から ひょうごから」のスローガンのもと、震災からの復興を象徴したマスコット「はばタン」とともに、兵庫国体が開催されたのは2006年でした。その翌年県当局は、県財政悪化を理由に「新行革プラン」を発表、県民いじめの財政削減・県職員の賃金削減を強行しました。県職員の「行革」カットは当初、2008年度から5年間の約束でしたが、10年目となる今に至るまで継続させ、県職員に損害を与え続けています。

## 月例給最大5%と一時金役職加算のカット(当初カット率)

「行財政構造改革の取り組み」と称して県当局が行った当初の賃金カット（2008年4月～）は、次の通りです。（役職加算は、一時金に差をつけるもので、年齢等によって役職加算なし・役職加算5%・役職加算10%に分かれます。）

○ 給料月額 3～2.5% カット	役職加算 10%（主幹教諭、教諭等）	…	3%	カット
	役職加算 5%（教諭等、技労職、行政職）	…	2.8%	カット
	役職加算なし（教諭等、常勤講師、技労職、行政職）	…	2.5%	カット
* 教職調整額（給料月額の4%）は、カット前の給料表額の4%（減額しない）。給料の調整額（特別支援）も減額しない。				
○ 地域手当 一律2% カット	10%地域	…	8%に	* 一時金へのはね返り… 期末・勤勉手当の算定基礎額： （給料月額+扶養手当+地域手当） に影響。（扶養手当は期末手当のみ）
	7%地域	…	5%に	
	5%地域	…	3%に	

## ○ 期末・勤勉手当の役職加算

10%加算者…6%に（4%カット） 5%加算者…4%に（1%カット）

（一時金の役職加算（10%・5%）は、ごく大まかに言えば、支給額が約10%・5%アップされます。

この「行革」カットにより、県教委試算では、2級150号の教諭(役職加算10%、扶養手当有)で、月例給：約2万3千円、一時金(当時年間4.42月分)：年間約13万5千円、年間合計41万円以上のカットを強いられたのです。

## 公民較差を無視した賃金削減 9年で最大300万円以上もカット

そもそも県職員の賃金は、民間賃金との較差等に従って出される人事委員会勧告に基づいて決定されるものです。ところが「行革」カットにより、県職員の賃金は、毎年民間より低い状態が続いています。その較差は最大約5%（県職員が民間より低い）にもなる時がありました。

また、2007年度の確定交渉では、カットは08年度より5年間の間としていたにもかかわらずその約束を反故にし、10年目の今年度になってもまだカットは続いています。全国で行われた地方自治体の独自カットも、今や兵庫県だけが継続している有様で、現役の教職員でこの9年間に最大300万円以上もカットされたこととなります。

（毎年の賃金確定交渉で厳しく追及し、また、職場の皆さんの署名の力で、「行革」カットの緩和・縮小を勝ち取ってきました。今年度は、月例給0.9～0%カット（若年層はカット無し）、地域手当1.5%カットとなっており、一時金のカットは廃止させています。）

## 賃上げでこそ景気回復・県財政好転の方策であるはず

県職員の賃金カットは、公務員準拠の民間の賃金に影響するだけでなく、地域に回るお金を絞ることになります。県当局は「県財政が悪化」といいますが、景気を回復して税収を上げるには、賃上げこそが必要です。「行革」カット中止の署名を県庁前のお蕎麦屋さんにご案内したところ、たちどころに数十筆を集めてくださったこともありました。

## 震災復興に乗じた無駄遣いが財政悪化の原因 反省もなし

県教委は「行革」カットの理由として「震災からの復興に相当無理をした」ための財政悪化と言いますが、震災後の財政悪化の原因は、復興に乗じて既存のハコモノの計画などを詰め込んで実施したことにあります。「単なる復旧ではなく、『創造的復興』を目指す」とした震災復興総事業費16.3兆円の中には、関西空港二期工事、神戸空港までもが計上されていますが、県民生活の復旧には冷たい態度でした。（淡路交流の翼港には、予想していた大型船の寄港はなく、釣り客の駐車代が主な収入となっている有様です）しかも、財政悪化を口にした後も、県内を通る高規格道路の計画・実施や大企業誘致の補助金のバラ撒き（尼崎に誘致したパナソニック工場には多額の補助金を出しましたが工場は撤退してしまいました）など、反省もなく無駄遣いを続けています。

## 欺瞞だらけの県「行革」 県民・県職員いじめの県政を許さない

新「行革」プラン実施に際し、井戸知事からの一枚の文書が職員室に貼られました。

…今回の新行革プランは、悪化した財政の再建を図りながら、元気で安全・安心な兵庫の実現に向けた基盤、枠組みづくりを進めるため、行財政全般にわたる改革に取り組もうとしております。  
／ 財政の再建には、相当な改革努力が必要です。これまでの取り組みの課題と反省を出発点として、…改革の推進に全力で取り組まなければなりません。／ そのためにも、教職員の皆さんの一人ひとりのご協力がどうしても必要です。…／ 21世紀の兵庫の明日をみんなの力を合わせて創り上げてきましょう。／ 平成20年2月15日 兵庫県知事 井戸敏三

県当局の言い分では、いまだに県財政が再建されていません。新「行革」プランは、大企業奉仕の無駄遣いを続けるために、県民と県職員を威嚇するものだったと言えるのではないのでしょうか。このような、県民と県職員をいじめ続ける、欺瞞だらけの心無い県政をきっぱり転換し、憲法が輝く県民本位の県政を築くことが求められます。